

第6回卒業証書授与式 式辞

神戸大学附属中等教育学校
校長 藤田 裕嗣

6回生の皆さん、御卒業おめでとうございます。世間ではいろいろな問題を抱えています。この日に皆さんが卒業できるのは事実であり、校長の立場から一言、お喜びと激励とお願いを申し上げます。

皆さんの中には、既に進学する大学も決まった、ないしは、国公立大学については、前期日程入試も終わった現時点で、合格に自信がある、という人も、いるでしょう。

大学に進学したら、皆さんが学ぶ学問は、人それぞれ。今まで仲の良かった友人とも、今後は違う学びをされるでしょう。これは、今までの「中等教育」を「卒業」して、「高等教育」を受ける、ということです。これから2年後、高等学校の学習指導要領は、新しくなり、そのキーワードは「主体的、対話的で深い学び」であり、それについては、研究開発学校をお受けしてきた本校では、特に「地理総合」「歴史総合」の研究開発学校の指定を受け続け、7年間、取り組んできました。この過程の中で、諸君も特に3年前から1年間、「地理総合」「歴史総合」を全国の高校では唯一、先取りして受講してきた訳です。戦後からスタートした本校での特色、「協同学習」の成果を受ける形で、君たちは十分に取組みまれてきました。この2科目は、本校に通ったからこそ、受講できた訳で、その点には自負心を持っていただきたい、と願っています。

これから、いつもの教室に戻って、本校での6年間、一緒に過ごし、励まし、互いに高まり合った友人たちと存分に交流なさって下さい。再会も期しましょう！

なぜ、この私がこんなことを言うのか、それは、私自身が、1976年2月に高校を卒業した時点では、まだ国公立大学の入試は、始まっていなかったのです。私は、大胆にも京阪神では最難関と言われていた国立大学の文学部を希望していて、一か八か、受験したら、幸いに現役合格できました。私立大学は一校も受けていません。もちろん、必死に受験勉強したからこそ、合格できたのです。

当時は、一期校・二期校に分かれていて、私が受けた一期校の受験日は、全国統一の3/3-5で、卒業式の日までは覚えていませんが、今とほとんど同じ頃でした。私が受けた年度では、三浪すれば、今の大学入試センター試験の前身、共通一次入試が始まる、とされていた。私は幸いに現役合格できましたので、全く受験していません。さらには、二期校も、希望する大学はなく、受けなかった。

卒業式の日、終われば、そそくさと帰って、受験勉強しました。あまりに悲し過ぎた。その後、全く再会できず、今も音信不通の友人も、います。

デジタルの形では、今後も幾らでも連絡は取れるが、実際に合っている本日の機会は、諸君にとっては大事です。これをぜひ有効活用して欲しい、私からのお願いです。

皆さんは、本校の卒業生で、本校にとって大事な宝です。大学に進学して、社会に出てからも、本校に来てください。デジタル上でも構いません。大学生になって、本校で学んだ、このことが大いに力となった；逆に、こういう点は、大学で初めて教わって、面食らった；という体験談を卒業後にお願いしたい訳です。それが、私が目指している高大連携に繋がるだろうと確信しています。進学先が神戸大学であろうと、なかろうと、構いません。神戸大学でなくとも、本校で学べた、という点は今後も続け、大学生になって初めて知った、という点で、神戸大学との協力により本校でも提供できることがあるなら、ぜひ付け加えたいと、私は考えています。

もう一度、申します。諸君らは、本校にとって、大事な宝です。卒業後も、神戸大学附属中等教育学校のさらなる発展を目指す仲間として、どうか宜しくお願い致します。

保護者の皆さん、6年間のご協力に感謝します。本日に御臨席賜りました御来賓の方々に対しても、御礼を申し上げます。高いところから失礼ながら、今後とも本校の発展に御協力賜りますよう、お願いして、私の式辞を終えます。

I congratulate you all on your graduation from our school.

Thank you very much for your listening to my address.

The 28th of February, twenty-twentieth,
Principal of Kobe University Secondary School

藤田 裕嗣